

## 榛南海域の大規模藻場造成に向けたサガラメの移植方法の開発

(予算区分 県単独 研究期間 平成 27~28 年度)

担当 : 水産技術研究所 深層水科 山田博一

### 【研究の背景とねらい】

県では榛南海域の藻場の復元を目指して種苗の移植事業に取り組んでおり、カジメについてはコンクリートブロックを用いた移植で 165ha まで復活させることができました。しかし、サガラメは生育水深が浅いことから、カジメで用いた手法での移植は適しません。そこで、サガラメが生育する浅い海域に対応でき、かつ漁業者でも実施可能な簡易な移植技術の開発を行っています。

現行の移植技術の課題として、移植基盤に取り付けた種苗が基盤から脱落しやすいことが挙げられます。この問題を改善するとともに、より簡易な移植技術を開発しました。

### 【研究成果】

#### 現行移植技術の改善

- ・ 現在用いている移植基盤（現行基盤）に代わる新しい基盤として、樹脂を繊維状に成形した新基盤を開発しました。新基盤では、サガラメの仮根部（付着器）が基盤に絡み、貫通するように伸長するため、現行基盤に比べて付着器が早期に海底面に到達し、固着することを水槽実験により明らかにしました（図 1）。

#### 新しい移植技術の開発

- ・ 現行及び新基盤にサガラメの遊走子、配偶体、ならびに孢子体を散布（種まき方式）した結果、各基盤とも遊走子、配偶体、孢子体の順に生育被度が高いことを明らかにしました（図 2）。
- ・ これまでは人力で基盤に種苗を取り付けていましたが、種まき方式により省力化できる可能性が示唆されました。

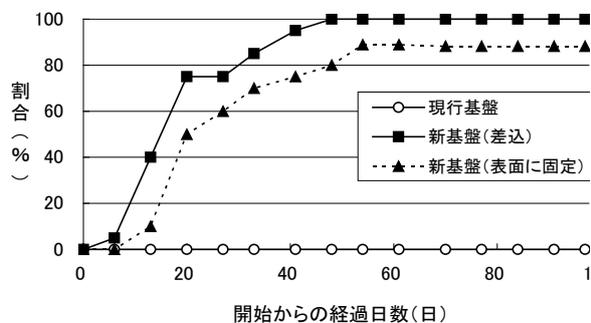


図 1 付着器が海底を模した基盤底塩ビ板に固着した割合

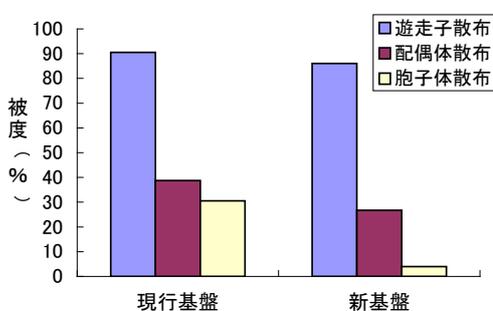


図 2 現行・新基盤の種まき方式による生育被度

### 【研究成果の普及方法】

- ・ 改善した新基盤については、次年度からの新規研究において基盤の材質、大きさ、厚さを検討するとともに、海域への移植試験を行って実用化を進めていきます。
- ・ 種まき方式による基盤の作成では、移植適サイズの把握と移植までの養成に課題があるため、今後新規研究で取り組み、実用化を進めていきます。
- ・ 得られた成果については、榛南地域磯焼け対策推進協議会で報告し、磯焼け対策事業につなげることで、サガラメ藻場の回復を目指していきます。

(作成 平成 29 年 3 月)